

ママと混浴温泉で遭遇 トモハ
ル！！出かけていたと思っていた
らこんなところに来てたのっ！！？

家を出て30分。

俺は自家用車の赤い軽自動車で気晴らしに近くの温泉へ向
かった。

家には誰もいなかった。

この日は休日。

友人のモトキたちとカラオケでも行って遊んでもよかった
のだが、なんとなく温泉に行きたくなった。

広い駐車場。温泉ならではの味のある木の看板。そして温泉
の向こうは山である。

国道が温泉沿い、山の反対側を通っている。

駐車場の真ん中あたりに車を停めて中へ。

ペーパー気味で普段運転することは少ない。

近くに駅やバス停があり移動手段には全く困らないのだ。

受付とコインロッカー。

秋の入り口の玄関には薪で暖炉が炊かれていて温かい。

俺はふと学生時代を思い出した・・・・。

ふとした時にいろんな光景が頭をよぎるといふか頭の中に出てくることはみんなあると思う。

スマホが普及して一人で行動したり自分たちの独自の手法

を使って遊びにしたりそれをビジネスにしたり、そういう
個々の生き方が主流になっていると思う。

友人たちだってたまに飲みに行ったりすることはあるが、基
本は孤独で一人だけなんて笑って言っていた。

孤独になった俺は・・・

大学の時の思い出がよぎる。

一人でいろいろなことをやっていた思い出がある。

飲食店巡りをしたり。

だけど友人たちといろいろな遊ばなければならない、みたいな
へんてこな強迫観念もあったりもした。

そういうものは流れの中で自然と分かってくる。

自然でいいのだということを知ったのは、社会人になって9年目の最近だったりする。

俺は現在32歳だ。

券売機の横にマッサージチェア。

中年の女性が目をつむって心地よさそうに使っていた。

腹部に両手が添えられている。スマホがその上に一台乗っかっている。

彼女は家族連れだろうか。

だけど一人で来ている人も多い。

要は何が言いたいかというと・・・・・・・・。

人はみんな孤独だということ。

男女別の温泉。

男湯に入ると・・・・・・・・。

・・・・・・・・そこにママがいた・・・・・・・・。

ママは俺にこう言った。

「トモユキ！！こんなところに来ていたの！！？」

ママはスーパーでの買い物のあとついでに足を伸ばしてここへ来たのだという。

パパは今、長期出張で東京へ出ている。

あと4ヶ月は帰ってこないらしい。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)